



宇治市 音楽連盟だより

第109号

令和 元年 6月 1日
発行 宇治市音楽連盟
会長 中西 秀 樹
宇治市広野町小根尾 138-16

宇治市音楽連盟 検索

令和元年

バブルの記憶は捨てよう

宇治市音楽連盟会長 中西 秀樹



世にいうバブル景気というのは、資料によると1986年(昭和61年)に始まり、1991年(平成3年)に崩壊したということだそうです。我が宇治市音楽連盟は、そのバブル真っ最中の1987年(昭和62年)4月に発足、同じ年の11月に第1回宇治市第九コンサートが開催されています。オーケストラは、1998年(平成10年)の第6回コンサートまで京都市交響楽団が担当、指揮者も山田一雄、大友直人、手塚幸紀、佐渡裕、沼尻竜典といったそうそうたる顔ぶれです。おそらくバブル景気の恩恵を受けた補助金のなせる技ではなかったかと思えます。しかし、その後は自治体もバブル崩壊の波に耐えきれず補助金を削減し、コンサートも苦しい運営を余儀なくされました。そんな中、昨年の第15回コンサートを演奏上の成功のみならず興業としても成功に導いたのは、積極的に合唱団員に応募するだけでなく仲間を勧誘し、加えて広告集めにまで奔走していただいた音連関係の皆さんの努力があつてのことだと思います。

バブルに翻弄された感のある平成が過ぎ去り、令和の時代になりました。過去のバブルの時代を懐かしんでも仕方ありません。アマチュア音楽団体にとって「補助金がないと活動も何もできない」などということはないはずです。たくさんの人達が知恵を出し合えば補助金なしでも第16回宇治市第九コンサートもできるかもしれません。

我が宇治市音楽連盟加盟団体に所属する会員はここ数年ずっと減少し、今年ついに400人を切りましたが、ミュージックフェスティバルはずっと独自資金で開催してきており、今後もその予定です。(ただし、文化センター施設・設備使用料免除となる助成金はいただいています。こういった助成制度はどこのホールにもあるわけではありません。宇治市文化センターに感謝！)

どんな活動でも仲間は多い方がいいです。少子高齢化とか人口減少時代とかいわれますが、音連の主要構成メンバーである60歳以上の高齢者人口はこれからも増えて行くと予測されています。ならば仲間を増やす余地はまだまだあるのではないのでしょうか。共に音楽を楽しむ仲間が増えるのは嬉しいことですものね。



第33回

音連ミュージックフェスティバル 2019



10月13日(日) 午後開催予定 宇治市文化センター大ホール